

## 第8回こどもの創造的学びに関する研究会 議事要旨

【開催日】令和2年3月30日（月）

【会場】デザイン・クリエイティブセンター神戸3階実験的活用スペース

【議事要旨】

### 1.開催

・座長より挨拶

### 2.報告

・事務局より資料④に基づき説明

### 3.ディスカッション

#### ・実験的プログラム開催報告について

委員：こどもの企画やアイデアで、これは大人では気が付かなかったというもののどの程度あったか、あるいはどのようなものだったか。

事務局：例えば、フラワーロードに生田川を再現する水路をつくり、インバウンドを呼びこむといったアイデアが出された。また、車いすの方でも税関前歩道橋を楽しく渡れるようにするためのアイデア等が出された。

委員：大人が気が付かないアイデアや、何となく思っていたが大人達は言えなかった意見を出すことで、子ども達の存在感が出てくる。いかに大人と子どもがコラボレーションしていくかという点が大事である。

#### ・学校アンケートについて

委員：Q2について、学校だけで足りるという先生が7%いるが、これはそもそも創造性を意識されていないのか、あるいはすごく意識していて、自分たちで創造性を高めているというイノベティブな先生なのか、このあたりはどうか。もしイノベティブな先生がいるなら、その知見も活用すればいい。

委員：学習指導要領が変わり創造性を身につけられないといけないということは多くの先生方が意識している。一方で、特に義務教育においては最低限の事を必ず身につけさせないといけないということで、創造性についてみんなが身につけさせないといけないのか、ということを考える先生もいるかもしれない。

委員：創造性を身につけることが、学校で優先度をもっているのかと実際に実行しているかということは密接にかかわっていると思う。そういった授業に取り組む先生をきちんと評価するという点も必要。

#### ・次年度実施事業（助成制度）について

委員：初回でもあり助成率100%でもいいのでは。また助成を受ける側からすると、現時点で多くの団体が既に計画を立てているので、用途を限定しすぎると中途半端な形の事業チャレンジになってしまう。

事務局：確かに助成を受ける事業者としては100%助成は良いと思うが、次年度以降の自走を前提として助成を行うため、ある程度採算性を確保した事業を実施してほしいという趣旨である。

座長：定着してくれば今提案しているような50%助成でもよいが、なるべく多くの実験をやってもらいたいということであれば、100%助成もありえるかもしれない。

委員：助成の対象となった事業の事例活用や公開が重要だと思うが、その辺りはどのように行っていくのか。

事務局：助成先が決まったら市からプレスすることを予定している。また助成を受ける企業には、報告会に参加

していただき、事業の成果等について公開を図る場を用意する予定である。

座長：より持続可能な形で地域全体で機運を高めるために、事例を知ってもらうことが重要だと思う。

委員：少額の助成枠でこどもに応募をしてもらうことも考えられるのではないか。

座長：こどもに手を挙げてもらい、小さな規模であっても、主体的に考えて実施するということが自体が面白いし、そういった内容については100%助成というのものもあるかもしれない。

委員：研究会で定めるビジョンに合った内容か審査した上で助成すべき。

委員：助成をして期待するのは事業化の呼び水になるものだと思うが、その目的としては助成額が少ない。

10~20万程度の事業は100%助成、200~300万の事業は半額助成するといった考え方もある。

事務局：神戸にはないが、既に展開している企業等がコンテンツを体験する機会を提供するというのであれば、必ずしも100%である必要はない。

委員：研究者は結構話に乗ってくれる場合もあると思う。JAXAと理化学研究所が包括協定を結んだが、JAXAの事務局の方に研究会の取り組みについて話をしたところ、関心を持ってもらっている。

事務局：助成制度についてもそういったつながりのきっかけとなればと考えている。つながりがもっと広がるよう、既存制度に拘らず制度設計をしていきたい。

#### ・次年度方針（プラットフォームの運営）について

委員：10月にオープン、その後に事務局の設置ということで前後しているように思うがどうか。

事務局：ずっと神戸市が主体としてやっていくことは難しいと考えている。スタート時点では神戸市が暫定的に事務局をしていくが、4月以降については外部に委託する方針である。

委員：プラットフォームは、どういう意味で使っているか。

事務局：神戸での創造的な学びの実践が集約されている、そこから活動が神戸市外にも発信されている趣旨。

委員：そういう意味ではコンソーシアムでは。同じ目的をもった人たちが集まり、実行するために助け合うための場所であり、集合体がコンソーシアム。プラットフォームはできあがったもの拡散するもの。

事務局：こんなことをやっていったらいいなという想いを共有できる場、基盤のイメージでまずはプラットフォームと呼んでいる。輪を広げていって、次の目標年次である2025年に神戸としてこんな形をつくっていかうという時に、コンソーシアムなのかなと思っている。

委員：いかに私たちも創造的な教育に踏み込みたいと思ってもらえるかという意味で、コーディネートという機能が非常に重要だと思う。

事務局：委員からより良くするための意見をもらう場については、引き続き検討していく。いずれにせよ、ご意見と関わりは引き続きたい。委嘱してというより、むしろいつでも意見を言える手段があり、節目があればお集まりいただくような形がいいのではないかと思います。

#### ・次年度方針（目指す方向性について）

委員：気風・文化を醸成していくことを目的とすることは素晴らしいことだと思うが、まだまだ研究が必要。資料④の10~11は研究会として責任を持てるようにしっかり議論したい。

委員：子育て世帯に選ばれるということがビジョンに出てくると、こどもが材料になってしまう。こどもの創造的学びの主体的なビジョンでないように感じてしまう。

委員：目指すべきビジョンについては、もっとこども中心にすべきだということと、大人自身が変わっていくということも入れていくべきだと思う。

委員：誰向けの資料なのかというのが大切な要素である。ビジョンについてもそれによってどういう表現にするべきか変わる。この表現でそのまま外に出すのは危険である。

委員：資料④10は、ちょっと思いついたことを自分で手足を動かしてつくってみる、適用してみる、こうい

った姿勢をつくっていくという事が背骨になる。現状は情報がこれでも多い。

委員：もう少しシンプルにしてチャレンジすることが許容されるということが打ち出されればそれで良い。11についてはこれから市民の目にも触れるところになると思うが、熱量を全く感じない。パット見て面白そうだと興味を引き立てるようなものが必要。

委員：10と11を逆転させて、10については、key object、key action、key result で整理する。あとはそれに対する具体的に実行するための設計を入れたらいいと思う。

委員：10がネガティブな始まりなので、11にポジティブなメッセージを入れて、逆転させることに賛成。

事務局：10、11については、本日出た意見を基に事務局で整理し、再度フィードバックする。チャットワークで意見をいただき、研究会の総意としてまとめを行いたい。

#### 4.事例紹介

- ・NPO 法人ミラック（代表理事：西村祐哉氏）の未来予測ワークショップについて紹介。

#### 5.次年度に向けて（事務局より）

- ・プラットフォームの立ち上げについて、KIITO を拠点として、市内外に向かって、創造的学びを発信していく仕組みをつくっていく。その運営については外部の事業者運営を委託する。
- ・神戸の教育大綱について議論する総合教育会議の中で、こどもの創造的学びについても議論することとなった。これについては今までなかった動きである。
- ・こどもの創造的学びの推進について、来年度の組織体制はつなぐラボが担当する。従前の産学連携ラボに加え、今年度新設されたつなぐ課、また市民協働を担当する部門も一緒になり、かなり視野を広く取り組んでいく。